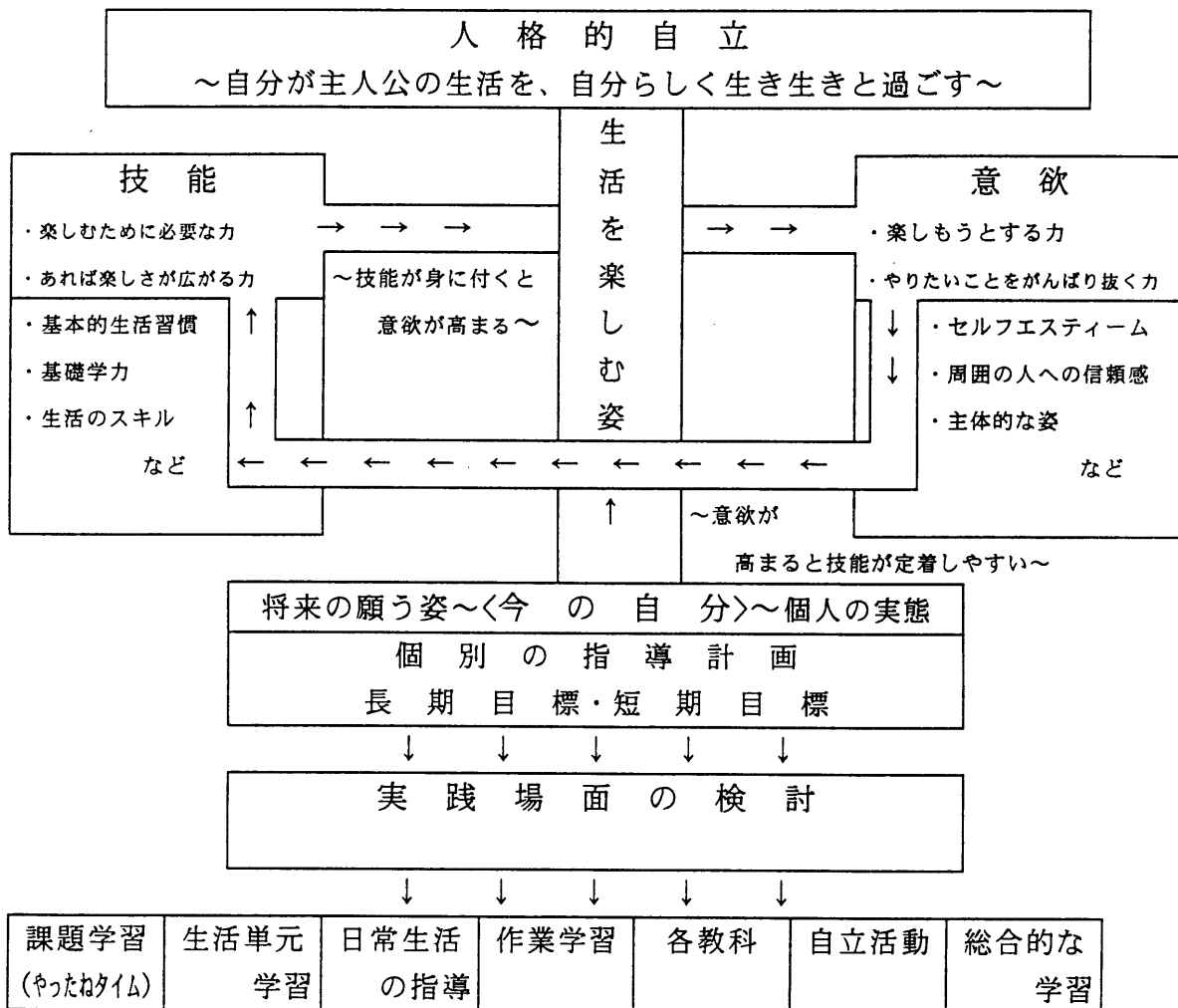


活動を通して生活を楽しむために必要な技能が身についていき、達成感や成就感を感じることで、意欲が高まる。この生徒の意欲の高まりが次の活動に取り組むエネルギーとなる。次の活動に意欲的に取り組むことを通して、生活を楽しむために必要な技能をさらに広げていくことができる。

このような循環は生徒たちにとっての「生活を楽しむ姿」の一つであると考えた。

中学部研究の構想図



(中垣克彦)

【4】平成12年度の取り組み

1. 週時程の変更

昨年度の反省から、週時程を変更し、課題学習を帯状に設定した。また、週3時間から週5時間へ増やした。

平成11年度の課題学習

	月	火	水	木	金	土
1						
2						
3					課題	
4					課題	
5			課題			
6						

平成12年度の課題学習

	月	火	水	木	金	土
1						
2	課題	課題	課題	課題	課題	
3						
4						
5						
6						

⇒

2. 課題学習の位置づけ

○課題学習

個別の指導計画に基づく、具体的な課題に取り組む。

個別あるいは少人数で学習する方が効果的と思われる課題を取り上げる。

継続して指導する。

○大切にしたいこと

生徒が進んでやりたいと思うような活動の設定

生徒の実態を見極め、最近接領域での課題の設定

友達との関わり合いの姿

課題を見極めた上での幅広い活動

3. 課題学習のグループ分け

4月頃は、クラス単位で学習していた。しかし、学級集団を解いて新たにグループを設定した方が効果的であると考え、10月に課題学習のグループを作った。

生徒の課題意識の段階（自分づくりの段階）で4グループに分けた。4グループの特色は以下のとおりである。

	グループの生徒の特色
1グループ	課題を自覚し、目標に向かって主体的に取り組む生徒
2グループ	パターン化された学習を繰り返すことで、基礎的・基本的なことをじっくりと定着していく生徒
3グループ	一人ひとりの興味・関心を多く取り入れることを大切にしたい生徒
4グループ	個別の場面を設定することで、より効果的な学習が期待できる生徒

4. 平成12年度の取り組みの成果と課題

○成果

- ・生徒一人ひとりに対応した学習が展開できた。
- ・集団の中で学びあう場面があった。
- ・継続して学習に取り組むことができた。
- ・少集団のよさがあった。

○課題

- ・課題学習の位置づけの検討に時間を要した。
- ・生徒の課題の捉え方が教員によって異なり、統一することが難しかった。

(中垣克彦)

【5】平成13年度の取り組み

1. 課題学習のグループ分け

グループ分けの観点は、見通しを持つ力をもとにした。生徒が学習活動に臨む際、長期的な見通しを持つことができる生徒は、何週間か先の活動を楽しみにしながら目標に向かって幅広い活動に取り組める。教師は、その何週間かを一つのスパンとして学習を組むことができる。また、すぐ目の前にある活動に没頭する段階の生徒には、分かりやすい活動で1単位時間の学習を構成する必要がある。このように、見通しを持つ力をもとにグループを作ることによってより個に応じた活動設定や支援の工夫ができると考えた。

グループ分けの概要は次のとおりである。

やったねタイムグループ

	Aグループ	Bグループ	Cグループ	Dグループ
生徒の見通しの持ち方	なりたい自分をイメージし、それを目標にできる。 ----- 少し長い期間の見通し	具体的な「やりたいこと」や「できるようになりたいこと」を目標にできる。 長くても数週間程度の見通し	今、目の前の活動をやりたいと思う。 今日、明日ぐら いから1週間先 の見通し	視覚的な情報をもとに、自分なりの見通しを持つことができる。
支援を考える上で大切にしたいこと	自分の思いをもとに、人の考えを聞きながら自分で考えて決めることができる。 失敗を次の活動に生かす。	達成感を積み上げる。 がんばれる自分、誇れる自分を感じられる経験の蓄積	やりたい気持ちを膨らませる。 今の活動を楽しみきる。	構造化などにより、活動を分かりやすくする。

2. 生徒の課題の捉え方

「生活を楽しむ子」を研究テーマに掲げる以前は、指示通りに動ける生徒や、自分の思いを必要以上に我慢して周囲の大人に合わせる生徒像が望まれる傾向にあった。その背景としては、指示に従って効率よく働けることが、就労につながっていくとい